

地方
小出版

情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 136円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町 20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

追悼・松岡正剛さん

松岡さんがいた時代に、学生・教職員が共に正面から読書に向き合い、創り上げてきた「共読ライブラリー」は帝京大学の財産

文・帝京大学 学術情報課 辺見純子

帝京大学では2012年から、学習支援を目的とした読書推進プロジェクト「共読ライブラリー」を実施している。読書による学力向上と情報編集法獲得を目指したこのプロジェクトは今年で13年目を迎えるが、松岡正剛さんが帝京大学メディアライブラリーセンター(通称:MELIC)を訪れた2011年の年の瀬、その歴史は動き出した。

「共読ライブラリー」前夜

MELIC(メリック)は帝京大学八王子キャンパスの図書館として、2006年9月に新館オープンした。学生の能動的な学びを支援するために教育連携に重点をおいた「指定図書制度」、「導入教育授業での図書館ガイダンス必修化」等を段階的に実施していたが、新館効果に乗じて伸びていた貸出数が2011年に初めて減少に転じた。

打開策として、当時のMELIC事務のトップだった中嶋が目をつけたのが松岡正剛さんとのプロジェクトだった。中嶋は2005年にISIS編集学校の[守]を受講し、松岡さんの柔軟で独創的な読書論とそれを具体化しプロデュースするノウハウを持った編集工学研究所の力が、帝京大学の継続的な読書プログラムに必要と考えていた。

中嶋の命を受けた中嶋が行動に移した。丸善の営業担当から伝手をたどり「松岡先生に一度MELICにお越しいただきたい」と中嶋の企画書を託したのだった。2010年7月に放送されたTBS『情熱大陸』を見ていた中嶋もまた、丸善丸の内本店にあった「丸丸本

舗」のような飛び抜けた発想の本棚がMELICの中にできたら愉快だと思っていたのだ。(その情熱的な行動力は、松岡さんのTwitterで「中満さんという一人の図書館員の発奮が共読空間の実験を発進させたのである」と書かれたほどである)

そして、2011年12月23日。松岡正剛さんがMELICを初訪問した。3時間にわたる打ち合わせと館内見学が終わるころには、MELICに「共読」を冠するライブラリーinライブラリーを創る構想が固まっていた。

当時の記録に松岡さんの言葉が残っている。

「MELICは「装置」「機能」とも大変すばらしい設備だ。ただ、学生や教員を「繋ぐ言葉」のインターフェイスができていない。それに綺麗すぎる。学生が近づいたり、触れるために、汚す必要がある」。

読み合い、薦め合い、評し合う 「共読ライブラリー」誕生

「共読」とは「本を薦めたり、連ねたり、読み合わせたり、評し合う」松岡さんが提唱した読書の形態である。この概念を使い、学生が自然と読書しなくなる仕組みと仕掛けを用意したの

が「共読ライブラリー」である。読書に通じる様々な入口となる、総合的で継続的な以下6つの柱で運営している。

- ①黒板本棚
- ②読書術コース
- ③共読ステーション
- ④どこでも図書館
- ⑤MITO(「未来の図書館」)
- ⑥共読サポーターズ

黒板本棚とCollege MONDO

松岡さんがまず目をつけたのが、MELIC正面入口スペースである。2006年の開館当初からパネル型の新着展示架を置いていたが、足を留める学生はあまりいなかった。「館



入館すると目の前にMONDO書架群が。

内に足を踏み入れた途端に本を読みたくなる場づくり」「1階の書架は上層階の書架と連動させる」「スペース内で面白いイベントを行い集客につなげる」という課題が松岡さん率いる空間デザインのプロにより「黒板本棚」というアイデアに結実する。文字通り、黒板で本棚を作ってしまったのだ。鉄板で作られたこの書架は黒板塗装を施しているため、書架自体にチョークでコメントを書き込める。また、マグネットを使って本を面陳したりPOPやポスターを貼ったりすることで、これまでにない自由度の高い展示が可能にな

った。照明にも工夫を凝らしている。マグネットで棚の上部にも側面にも取り付けられる棒状ライトは、展示した本をショーアップする。

同時にこの黒板本棚を使った企画「College MONDO」もスタートさせた。MONDOは「問い」と「答え」の<問答>に、<世界（イタリア語）>の意を掛けたもの。「Special MONDO」「Career MONDO」「Life MONDO」「Teikyo MONDO」「New Books」の5種のチャンネルを展開している。

Special MONDOでは、学生が著名人のゲストに対する質問や自分の悩みを応募し、ゲストがその質問に対してセレクト本とコメントで回答を返す。記念すべき第1回のゲストは女優の蒼井優さん、お笑い芸人の又吉直樹さんだった。たとえば、学生の「お笑いのコツを教えてください」の質問に、又吉さんは太宰治の『ろまん灯籠』をおススメする。普段本を読まない学生も、又吉さんが薦める本には興味をもち、質問者以外の学生たちもつい本を手取る。

MONDO書架は読書を「一人にしない」、本を「一冊にしない」循環型読書<共読>の象徴なのである。人に薦められて新しい本と出会い、一冊の本との出会いがまた次の本への世界を拓く。MONDO書架は単なる展示棚ではなく、人と本をコミュニケーションさせるツールとなった。

授業への「読書術コース」導入

「読書術コース」はISIS編集学校の読書術レッスンを帝京大学の学生向けにアレンジしたオンラインコースである。初年次授業の中で、基本的な読書スキルを身につけることを目的としている。

学生はオンライン上で7~8名1組のグループになり、各グループに1名のナビゲーターがつく。自分の選んだ課題本（新書1冊）を読みつつ、全8回の読書術レッスンに3週間で回答していくが、オンライン上で他のメンバーの回答を読むこともできるため、自分が選ばなかった本も他人の回答を通して「共読」できる仕組みとなっている。ナビゲーターはISIS編集学校の師範たちが務め、学生たちに伴走し回答

をブラッシュアップさせていく。

2012年開始時はインターネットの掲示板システムを使用していたが、現在は読書トレーニング・アプリ「メクリ（<https://mekuri.jp>）」で受講できる。最終課題としてキャッチコピーと200文字のリコメンド文を本の帯に仕立て、優秀な作品は学科で表彰する。全学科に展開できていないのが残念であるが、2023年度は教育学部、スポーツ医療学科、短大の1年生565人名が受講し479名が修了している。

新書はおろか、日常的に読書の習慣の無い学生が大多数だが、修了後には「目次から抜いたキーワードから連想したことが本の中に書かれていた時はうれしく、読むのが楽しかった」「疑問を持ちながら深く読むことでたくさんの発見があった」などの感想が寄せられる。「読書術コース」は12年間で8,000人以上の帝京大生を読書の入口に導いている。

新しい読書のカタチ

このほかにも、MELICから飛び出して学内外に本をデリバリーする「オカモチ」や「ブックル（本棚付き電動三



本を出前する「オカモチ」



読書のスイッチを入れる「読書服」のファッションショー

輪車)」。学生とクリエイターが協働して、「今ここには無い」新しい読書のプロトタイプを創る<MITO>。新大学棟（MELICとは別棟）に開室した「学びをデザインするラーニングコミュニティ：ACT3」など、学生が能動的に本と出会える仕組みと仕掛けを展開

してきた。試行錯誤、紆余曲折様々あったが、いずれも<共読ライブラリー>ならではの新しい読書の形に学内外からの反響も大きい。

カッコいい読書のシンボル「共読サポーターズ」

読書に関心のない学生にも興味を持ってもらうためには、同じ「学生」というフィールドを持ったキーマンが必要である。開始当初から、運営の主体を担う学生組織「共読サポーター」を募集した。2012年度に18名のメンバーからスタートした共読サポーターズも12年間で200名を超える学生が在籍。今年度も学科・学年の異なる約60名が定例活動、イベント出展で活躍している。学年ごとに役割をステップアップし、1年生は研修（6種の共読研修後にデビュー）、2年生は実働、3年生は運営、4年生はオブザーバーとなり、先輩から後輩へ技と経験を引き継いでいく。活動の内容は

- ①本棚づくり
- ②ピリオバトル
- ③MONDOストリート
- ④OPACへのブックレビュー投稿
- ⑤学園祭・図書館総合展への出展
- ⑥他大学との交流

など多岐にわたるが、いずれの活動も核となるのは松岡さんが提唱した「目次読書法」である。当初はISIS編集学校の師範代から直接指導を受けた「目次読書法」も、今や3年生（運営）が新規生への研修を行なっている。

かつて、松岡さんがこのプロジェクトを進めるには、3人の学生が必要だと語っていた。ハリーポッターの、ハリー、ハーマイオニー、ロンのように、キャラクターの立つプレイヤーが中心的な役割を担うことで活動のシンボルになると。松岡さんの予想とは少し違ったかもしれないが、近年は「共読サポーターズ」に憧れて帝京大学への入学を決める高校生もいるほどで、その活動は若い世代にも魅力的に映っている。

共読サポーター自身もこの活動を通じて成長していく。本から得た情報を自分の中にインプットして、相手に伝えるために様々な形に編集してアウトプットすることを繰り返すうちに、情報編集力はもちろん、発想力、コミュ



毎年、学園祭で開催する「共読古本市」。実際は、一人一箱の店主となる一箱古本市



本棚付き電動三輪自転車「ブックル」でイベントに出動



3階・4階にずらりと並ぶ黒板仕立の「MONDOストリート」



MONDO書架前で第1回共読対談 (左:沖永佳史学長 右:松岡正剛氏)

ニケーション力などの社会人基礎力を身につけていく。入学したときは内向的に見た学生が、本を介して自分を語る堂々とした姿をみるにつけ、読書の力を信じずにはられない。

「自分流」の未来を読書で切り開く

MELICが、<共読ライブラリー>というユニークな読書推進をここまで進めてこられたのは、沖永佳史学長

の「自分流」は読書がつくるという考えによる。帝京大学の教育理念である「自分流」。自律的に考え、行動し、結果に責任を持つ学生を育てるために「全学で読書する大学」を目指す学長は、松岡さんとも何度か読書の未来について対談や意見交換を行っている。

松岡さんがいた時代に、学生・教職員が共に正面から読書に向き合い、創

り上げてきた<共読ライブラリー>は帝京大学の財産である。お近くにお立ち寄りの際はリコメンドあふれる館内をぜひ見学いただき、新しい本との出会いを体感いただきたい。近隣地域に在住在勤の方は利用登録をいただければ貸出も可能である。

*

(へんみ・じゅんこ/帝京大学 学術情報課)

執筆協力：中嶋康 (SWITCH Library 代表)、中満恒子・堀野貞美 (帝京大学)

<共読ライブラリー>図書館総合展出展のお知らせ

1) 図書館総合展フォーラム

共読サポーターズが語る！学生協働の本音

「読書がつなぐ出会いが大学生に何をもたらしたかー先輩から後輩へ<共読ライブラリー>13年目の継承力」

- 日時：2024年11月5日 (火) 15:30～17:00
- 会場：パシフィコ横浜 会場開催 (第8会場)
- 詳細・お申込：
<https://www.libraryfair.jp/forum/2024/1283>
- 定員：80名

2) 図書館総合展ワークショップ

共読サポーターズによる<帯づくりワークショップ>

- 日時：2024年11月6日(水) 15:45～16:30
11月7日 (木) 14:30～15:15
- 開催方法：
パシフィコ横浜 会場開催 (スピーカーズコーナー)
- 詳細・申込：
<https://www.libraryfair.jp/forum/2024/987>
- 定員：各回 20名

なお、図書館総合展期間 (11/5～7) はブース出展もしております。

新刊ダイジェスト

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

『イーディス・シットウェルー戦争と原爆を表した英国女性詩人』●寺沢京子 著



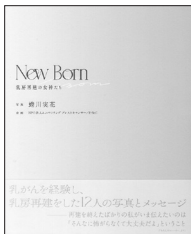
英国女性詩人、イーディス・シットウェルは1887年にヨークシャー州の裕福な家庭に生まれたが、二人の弟ばかりに愛情を注ぐ母親とは折り合いが悪く、家族の中では孤独だったが、家庭教師ヘレン・ルーサムとの出会いで音楽や文学に興味を持ち、フランス象徴詩も紹介される。のちにヘレンと共に実家を出て、ロンドンで詩人として活動を始め、世界大恐慌が起きた1929年には後の第二次世界大戦を予言したかのような『黄金海岸の慣習』を発表。この後、しばらく詩作からは遠ざかるが、大戦が始まる頃、再び詩作を始めた。1940年のロンドン空襲を描いた『なお雨が降る』は代表作であり、広島と長崎の原爆投下で衝撃を受け、『新しい日の出のための哀歌』『カインの影』『薔薇の賛歌』から成る「核時代の三詩篇」を書いた。当時の英国で戦争や

原爆について書き得た唯一の人物で、この詩に強く心を動かされた著者がシットウェルの研究をライフワークとして、本書で実を結んだ。色彩や暗喩を巧みに使い、原爆を人間全体の罪として捉えながら、三篇目では不毛の地になると言われていた広島で草木が芽生えたことを知り、惨禍を超えた再生のシンボルとして薔薇を用いた。コロナ禍、気候変動、今なお続く戦争……不穏な現代で改めてシットウェルが残した言葉の重さに気づかされる。

後半には海外文学や小説、映画、演劇から坂本龍一や神谷美恵子といった人物まで取り上げた13篇のエッセイを掲載。言葉の大切さや平和がテーマとなっている。(Y)

◆1500円・四六判・158頁・竹林館・大阪・202409刊・ISBN9784860005207

『New Bornー乳房再建の女神たち』●写真 蛭川実花



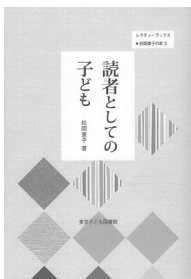
乳がんを経験し、乳房再建手術をした12人の写真とそれぞれのストーリー。企画はNPO法人エンパワリングプレストキャンサー/E-BeC。E-BeCでは、希望する乳がん患者さんの誰もが一定水準の乳房再建手術を受けられる社会を目指している。2024年現在、自家組織再建、インプラント再建ともに公的医療保険で手術を受けることが可能だが、そのことを知らない患者さんが多く、まだまだ理解が広がっていない、という。本書は、乳房再建手術経験者がモデルとなり写真集として流通させることで、広く乳房再建手術とその意義について理解を持ってもらう、そのための1冊である。E-BeCは毎月第3土曜日に、乳房再建経験者とともに乳房再建手術について情報交換する「Zoom&リアルで乳房再建ミーティング」を開催、また年に1、2

回「乳房再建セミナー」において、多彩な講師による乳房再建に関する最新情報の解説や患者さんのQOL向上に役立つ内容を届けている。

撮影は映画監督で写真家の蛭川実花さん。蛭川さんは、モデルとなった皆さんが経験したつらいことに焦点を当てるのではなく、つらい経験をしたからこそ輝いている「今」を祝福する写真にしたいと思いながら撮影に臨んだ、とそう巻末で書いている。ここでモデルとなった50代のある患者さんのストーリーから、とても印象的なことばを引用させていただく。「いま、再建を終え、その扉のむこうに見えるのは、可能性にあふれる花畑のような心地よい景色です。」(N)

◆2700円・225mm×188mm判・88頁・赤々舎・京都・202410刊・ISBN9784865411898

『読者としての子どもーレクチャーブック◆松岡享子の本3』●松岡享子 著



2022年に他界した松岡享子さんが2015年に上梓した『子どもと本』(岩波新書)に書きもらしたことで、その後に考えたことを述べた本で、両書は一对の作品として読める。『子どもと本』では、著者の半自伝、家庭でどんな本を選ぶのか、昔話のもつ力、図書館員として本の選択、日本の図書館の問題点について記し、本書では、読者としての子どもの可能性、ことばの持つ不思議な力、子どもを良い読者に育てるための留意点について記す。著者の深い学識と旺盛な好奇心に誘われて、各章末の引用文献すべてに手を出したくなる。

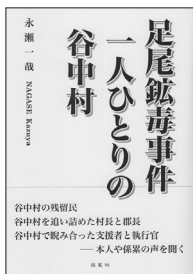
また、本文の内容だけでなく装丁にも心惹かれる。日本の伝統色である浅紫を基調にした色彩の表紙には、着物の文様を思わせる定型の柄が描かれていて、本を手にとると懐かしさを感

じてホッとした気分になる。さらに岩波新書の『子どもと本』に比べ、本書は少し大きめのB6判サイズで1ページ13行とゆったりした版面が読み手には心地よい。少しセピアがかった用紙の本文を読み始めると、子供の頃、近所の家庭文庫に行って知りで優しいお姉さんの話を聞いていた時代を思い出した。著者の生涯は本書で紹介した恩師キャストニア氏の言葉「わたしたちは、本がよいものであると信じる人たちの陣営に属しています。わたしたちの仕事は、できるだけ多くの人をこの陣営に招き入れることです。しっかり働いてください」その言葉通り生きた見事な生涯だったと、敬服している。

(石井一彦)

◆1400円・B6判・133頁・東京子ども図書館・東京・202407刊・ISBN9784885690259

『足尾鉍毒事件 一人ひとりの谷中村』 ●永瀬一哉 著



足尾鉍毒事件と聞けば田中正造にばかり目がいってしまうが、事件には加害者があり、被害者とその支援者、被害者を弾圧した権力者、そしてそれぞれの家族、係累が存在する。そうした様々な立場の無数、無名の人々に接し、知られざる資料を掘り起こして、「正造史観」とは違った事件像を浮き彫りにした労作である。第一章「解説として一田中正造と足尾鉍毒事件を巡る人々」の一人、左部彦次郎は、はじめ田中と行動を共にしながら栃木県官吏に転じ、谷中村廃村に手を貸す立場に回った。だが、左部には単純な裏切りと決めつけられない「現実の直視」があったことを明らかにする。第二章「谷中村」を生きる」は、親が村退去を拒んだ関口コトと島田清、村を滅亡に追いやった最後の村長大野東一と郡長安生順四郎、田中と村破壊の

現場に立ち合っただけ後に袂を分かちジャーナリスト菊地茂、県警トップで苛烈な強制執行を指揮した植松金章を取り上げる。

関口と島田は30年前、生前の貴重な聞き取りである。事件当時は幼く、大勢の巡査に家を壊された怖さくらいしか覚はないが、その後の掘っ立て小屋での生活の辛さと田中の優しさを聞く。大野、安生、菊地からは、係累が知る彼らの複雑な心情と、時を経た今、係累としての胸の思いを引き出す。植松のことはこれまで全く知られていなかったが、事件後に職を辞して弁護士になり、人権を標榜して活動した。谷中村は植松の十字架になっていたと推察する。それは植松だけのことではないだろう。(飯澤文夫)

◆2500円・A5判・334頁・揺籃社・東京・202409刊・ISBN9784897085111

『ラフカディオ・ハーンの耳、語る女たち—声のざわめき』 ●西成彦 著

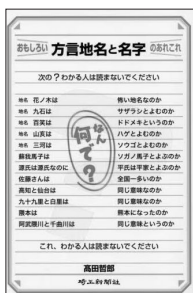


ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)の生涯はヨーロッパ時代、アメリカ時代、そして日本時代の三つに区分できる。本書は、ハーンの各時代の様々な局面と様々な作品について様々な視点で論じているが、ここではアメリカ時代、仏領マルチニークに滞在した時期の総決算とも言える小説『ユーマ』を取り上げている章(『語る女の系譜』)で立ち止まってみたい。この小説で著者が注目しているのは、ハーンが描いた、通称「ダア」の名で親しまれた黒人奴隷の乳母である。彼女たちは一定の年齢になるまでの主人の子どもの守りを任された「もう一人の母親」である。彼女たちは授乳から子守唄や昔話の語りまで昼となく夜となく主人の子どもの世話をする。彼女たちの語るクレオール語は子どもたちにとって「お伽噺の言語」であり、後の教育で身につ

けていく公用語とは異なる意識下の母語となる。ハーンは無意識的にか、日本においてもこの母語的なものに惹きつけられ耳を傾けていく。それが、生涯の伴侶となる小泉セツの怪談語りであり、あるいは、門づけの三味線弾きのような伝承芸能であり、下駄の響きといった庶民が奏でる日常の物音なのである。そして、この母語的なものへの傾斜は著者によって、ハーンの幼少時における母親との別離という体験と重ね合わされる。「ハーン的一生とは、母という幻影に取り憑かれながら…幻の「母語」の回復に費やされたあてどない放浪として見る事が可能だ」。これはハーンの生涯と作品を紐解くのに極めて重要な視座である。(岡安清)

◆2700円・四六判・395頁・洛北出版・京都・202409刊・ISBN9784903127354

『おもしろい方言地名と名字のあれこれ』 ●高田哲郎 著



地名というのは同じ漢字でも読み方が様々あり、初見では読めないものも少なくありません。そしてその地名と結びつきの強い名字もまた然りです。その奥深い地名と名字の世界に本書は分け入っていきます。特に本書のタイトルともなっている方言地名は、元となった地名から音が転訛していき、当てられている漢字とはかけ離れた読み方になってしまいます。それに輪をかけてのが好字令や縁起のいい文字の起用です。これにより元の漢字も別の意味を持つ漢字に置き換えられ、その由来を探るのはますます難しくなっていました。例えば「竹平」という地名は、植物の竹とは関係なく、河岸段丘上の平地「嶽の上の平地」を表す地名であり、読み方は「タケンテーラ」というのですから、地名の解釈の難しさがよくわかります。「生」と

いう字が地名では68通りの読み方があるといわれると気が遠くなりそうです。しかし地名の創造力はそれだけではありません。「十六舞」という地名は、これを「ししまい」と読む、なぜなら4×4=16「ししじゅうろく」だからと言われてしまうと、その字を当てたことに感心するしかありません。

そうした幾重にも隠された地名や名字の意味を掘り起こしていくと、そこから意外なことも見えてきます。高知と仙台が同じ地形的な起源を持った地名であるという指摘などには驚かされます。ぜひ複雑怪奇かつユーモラスな地名と名字の世界の一端を覗いてみてください。

(副隊長)

◆1800円・B6判・291頁・埼玉新聞社・埼玉・202409刊・ISBN9784878895555

売行良好書

期間：2024年9月15日～10月14日

※価格は本体価格表示です。別途消費税がかかります。

【出荷センター扱い】

- (1)『たぶの里』1200円・ナナロク社 (2)『シュレーディンガー詩集 恋する物理学者』1900円・書肆侃侃房 (3)『情報の歴史2』6800円・編集工学研究所 (4)『激動、昭和史の墓』2300円・寿郎社 (5)『椋鳩十と戦争』2000円・書肆侃侃房 (6)『よみかぜのきほん』750円・東京子ども図書館 (7)『あなたのための短歌集』1700円・ナナロク社 (8)『中村哲 思索と行動「ペシャワール会報」現地活動報告集「下」2002～2019』2700円・忘羊社 (9)『創られたキリシタン像』1000円・花乱社 (10)『問いかける陽明学』2700円・吉備人出版 (11)『肉食主義者』2200円・クオン (12)『田中一村かそけき光の彼方』1800円・南方新社 (13)『不登校は1日3分の働きかけで99%解決する』800円・リーブル出版



【ジュンク堂書店池袋店 地方出版社の本—センター扱い図書】

- (1)『水上バス浅草行き』1700円・ナナロク社 (2)『花は泡、そこにいたいよ』1700円・書肆侃侃房 (3)『二ホンウナギ読本 ウナギの“想い”を探る』1200円・花乱社 (4)『ジソウのお仕事 データ改訂版』1800円・フェミックス (5)『「砂の器」と木次線』1800円・ハーベスト出版 (6)『特急やくも写真集』2500円・今井出版 (7)『千夜曳糞』1800円・青磁社 (8)『シソヌじろうの自分探し』1400円・東奥日報社 (9)『調査されるという迷惑 増補版』1500円・みずのわ出版 (10)『途上国の人々との話し方』3500円・みずのわ出版 (11)『フィンランド人の物語』1800円・下野新聞社 (12)『創られたキリシタン像』1000円・花乱社 (13)『新版 奥多摩登山詳細図 東編 全148コース』900円・吉備人出版 (14)『大菩薩連嶺 中央線沿線の山 登山詳細図 全184コース』1400円・吉備人出版 (15)『東京の森のカフェ』1300円・書肆侃侃房 (16)『アニメ地域学』2800円・竹林館



以下ホームページ等でも各種情報提供を行っております。ご利用ください。
 URL : <http://neil.chips.jp/chihosho/> X (旧ツイッター) 公式アカウント : @local_small

トピックス — ★★★

▼10月10日夜、今年のノーベル文学賞に、韓国の作家の韓江（ハン・ガン）さんが選ばれたというニュースを見た時はほんとうに驚きました。普段から当たり前のように手にして見慣れた表紙の書籍が、書店の店頭で多面積みになっている光景が繰り返して放映されていたのですから。【肉食主義者】(978-4-904855-02-7 本体2,200円) というタイトルのその小説は、出版社のクオン（東京）さんとおつきあいが始まってから間もないころに刊行されたもので奥付は2011年5月25日発売となっていますから13年前になるわけです。「新しい韓国の文学」シリーズの第1冊目でした。日本では当時はまだ今のように韓国文学が広く読まれている状況ではなかったと思います。長年に渡り、日本における韓国文学の翻訳と普及に尽力されてきたクオンさんには改めてお祝いの言葉を送りたいと思います。【肉食主義者】は同じハン・ガンさんの作品【少年が来る】(978-4-904855-40-9 本体2,500円) とともに品切れ中で11月上旬に増刷予定とのこと。

▼ノーベル文学賞が発表された翌11日には、ノーベル平和賞が発表され、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が受賞しました。「核兵器のない世界を実現するための努力」と「核兵器が二度と使われてはならないことを目撃証言を通じて示してきたこと」が理由としてあげられていました。これと関連してのことですが、今号の新刊ダイジェスト冒頭では、戦後、当時の英国で原爆について書き得た唯一の詩人だったというイーディス・シットウェルが紹介されています。注目していただければ幸いです。

▼昨年7月に閉店した名古屋のちくさ正文館書店本店の元店長・古田一晴氏が10月10日、病气療養中のところ72歳で亡くなったとのこと。閉店から一年余での訃報でした。謹んでご冥福をお祈りいたします。

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

ジュンク堂書店 池袋本店

淳久堂書店

営業時間：午前10時～午後10時

池袋であなたのふるさとに帰ってみませんか？

2階「ふるさとの棚」では、地方小出版流通センター扱いのご当地本を幅広く取り揃え、皆様のお越しをお待ちしております。

〒171-0022
 東京都豊島区南池袋 2-15-5
 TEL 03-5956-6111
<http://www.junkudo.co.jp>

